

大阪城

2024
1/11 (木)
14417号

全港湾
西成分會

247
6647-
4947

我々も今日で終り。我々が終りは歴成の
仕事も郵き出す……といわれたのは遠く昔の
ようになっている。昨年末に全国の労災安全
問題を斗っている各地方の安全センターの代表者
大阪に集まり、総会があった。大型の建設現場
が2016年ころにできた。通称「職人権法」によって

さまざまわりして、年金、健康保険、雇用の三保
険をもっている労働者が現場に入れない流れに
なっている。形式的な三保険の証明や一人親方など
日雇雇用保険（白年帳）の労働者が大型現場に入れ
ない流れが強まっているとの報告があった。あるいは職
の白年帳所持者が50人ほどに激減してきた。背景
にある原因の一つでもあるだろう。このような人の
流れや労働者の郵きの変化の中から、労働運動や
人の集まりや、結集・結合の方式も、条件にあった
ものに変わっていくことで進化が進んでいく。

能登の輪島では、4メートルほど地面が持ち上ったり、
4、4平方キロの広さで、新しく海の中から陸地ができて
たりしている。数千年前におこったのと同様の地形の
郵きだという。3000年前ほど前に大陸がうみ離れて
生れたきた日本列島が小さく郵きはじめていく。

「国土強靱化政策」はどれだけ有効だったろうか

人知を超える自然の威力

石川県能登地方で発生したマグニチュード(M)7・6の地震について、東北大学の遠田晋次教授(地震学)は9日、能登半島北側の活断層帯が連動し、強い地震を引き起こしたとの見方を示した。今回の地震の規模は、この地域で3000~4000年の間隔で発生するものだったという。(読賣9日)

【被害状況 10日】石川県で203人死亡 安否不明者68人(9時)

2024年1月10日 12時33分

石川県によりますと、10日午前9時の時点で、県内で、あわせて203人の死亡が確認されたということです。また県は、10日午前9時の時点で安否が分かっていない人として、68人の氏名や年齢などを公表し広く情報の提供を求めています(NHK) 最大震度7を観測した能登半島地震の被災地は厳しい寒さが続き雨が降っています。地震の揺れで地盤が緩んでいるため、少しの雨でも土砂災害の危険度が高まるおそれがあり、気象庁は警戒を呼びかけています。

これから本格的な冬・雪の季節

「政府の初期対応がまずい」「後手後手じゃないか」という声もあります。いずれにせよ厳しい環境下での長期的な対応が必要。建設労働の需要は高まるとおもいます。